

静岡県小山町における 森林・林業に関する取組



小山町の紹介

- ・静岡県北東部に位置し、神奈川県・山梨県と接する
- ・富士山を頂点とした富士外輪状の三国山系、丹沢山地、金時山や足柄峠を含む箱根外輪山に囲まれた町
- ・金太郎誕生の地



人口 ; 18,823人(2018年9月1日現在)
面積 ; 136km² (13,602ha)
うち、森林面積は9,146ha(67%)
標高 ; 3,776m(富士山頂)~236m



小山町の森林について

- 小山町の森林面積は約9,200ha(民有林約6,100ha、国有林約3,100ha)で、森林率は約68%。人工林の94%は9齢級以上と資源は充実。
- 宝永噴火をはじめとする、火山噴出物が堆積した土砂(スコリア)が積み重なった地層。(※スコリアは浸透能力が高く、水より軽いため土砂流出しやすい)
- 平成22年の台風9号によって山地斜面部に堆積していたスコリアを中心として、山地崩壊が発生し、大量の土砂が下流域へ流出。



宝永の噴火について

宝永4年(1707年)12月16日、富士山は南東斜面より大噴火した。噴火は16日間断続的に続き、新たに開いた宝永火口から噴出した火山礫や火山灰などの噴出物は、偏西風によって静岡県北東部から神奈川県北西部、東京都、さらに100km以上離れた房総半島にまで降り注いだ。



宝永山と宝永火口
(写真/国土交通省富士砂防事務所)



【図2】 現代地図と宝永火山灰厚さの分布

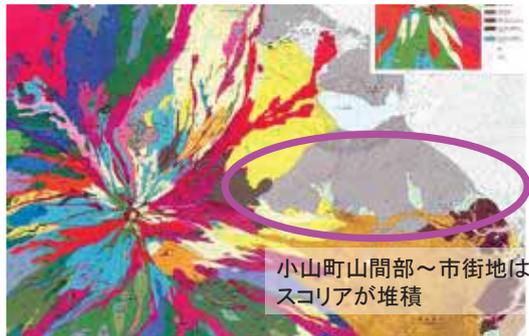
(内閣府による)

東北高速道路では道路幅員が1m以上の火山灰を火山灰で埋め立てられ、道路幅員は約10cm以上の火山灰が降り積もる。東海道新幹線も小山駅一帯で約20cmの火山灰で覆われる。山梨県で10cm、静岡県静岡市は20cmの厚さに火山灰が積もり、噴火が収まってからも火山灰を完全に除去するには数ヶ月の作業が必要と見られる。

3

小山町の地質(スコリア)

- ・スコリアとは
玄武岩質マグマが噴火の際に
発泡して多孔質になったもの
- ・スコリアの特徴
粒径は2mm～10mm程度(粗砂～細礫)
水は浸透しやすい



4

小山町で見られる火山噴出物の露頭



通称: グランドキャニオン

- ・富士山麓(小山町須走)に残されている噴火堆積物の露頭。
- ・1枚1枚の地層が、それぞれ1回の噴火に相当する。



小山町に堆積しているスコリア

- ・1707年12月の富士山の大噴火(宝永噴火)によって生じた降下火山礫層(宝永スコリア)。
- ・堆積して300年足らずの新しい地層であり、厚さは最大で約3m。

5

小山町で発生した豪雨災害

○平成22年9月台風9号

9月8日未明から降り始めた雨は、1時間最大雨量118ミリ、夕方18時までの累計雨量は過去最大となる490ミリの大雨となり、局地激甚災害指定を受けた。

洪水とともに、山地部から河川へ大量の土砂や樹木が流出した。



6

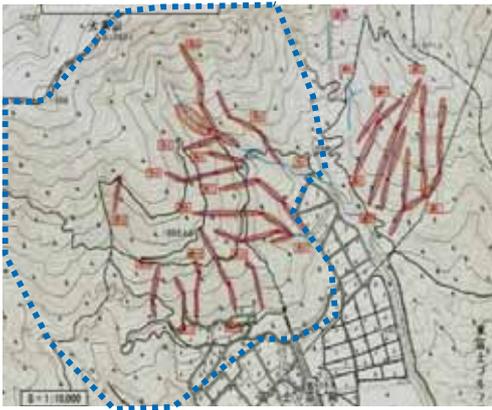
山地の被災状況



山地の被災状況



角取山の被災状況



角取山被災状況写真



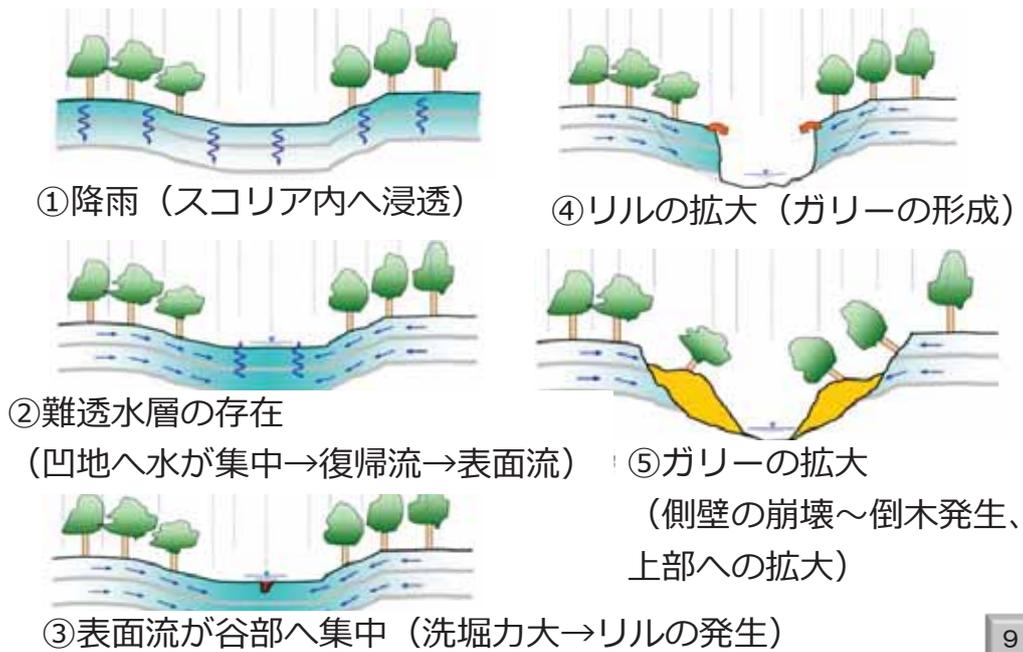
角取山の被災状況

角取山被災状況写真



8

スコリア地盤の被害形態



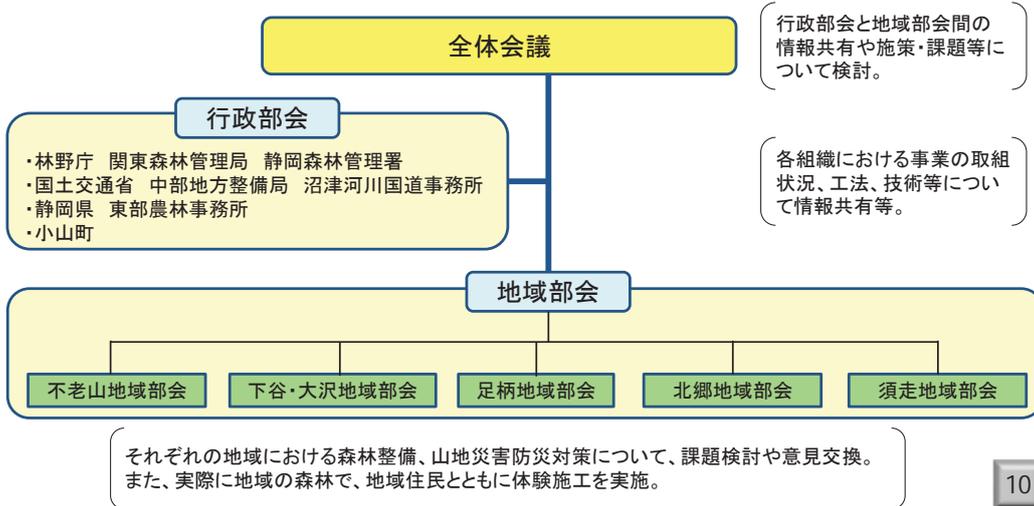
9

小山町山地強靱化総合対策協議会について

○ 目的

荒廃森林の効率的かつ早急な復旧や適切な森林整備を通じて、森林に起因する災害の発生防止、被害軽減等の取組を関係者で連携して進める。

○ 組織図



10

地域部会の取組

No.	年	地区	目的	実施工法	No.	年	地区	目的	実施工法
1		須走	水防保全	スコリア土のう設置・土壌改良工	1		須走	スコリアの移動抑制	土留工の設置
2		北郷	スコリアの移動抑制	植生工・野原刈草	2		北郷	スコリアの移動抑制	茶土改良工、土留工の設置
3	H29	不老山	スコリアの移動抑制	スコリア土のう設置・茶土改良工	3	H28	不老山	スコリアの移動抑制、水防保全	スコリア土のう設置
4		足柄	スコリアの移動抑制	植生マット工・茶土改良工・種子散布工	4		足柄	水防保全	スコリア土のう設置
5		下谷・大沢	水防保全	スコリア土のう及びテラスセル設置	5		下谷・大沢	水防保全	スコリア土のう設置
6		須走	林内のスコリア移動抑制	種子散布工	6		須走	林内のスコリア移動抑制	種子散布工
7		北郷	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設	7		北郷	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設
8	H27	不老山	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設	8	H27	不老山	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設
9		足柄	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設	9		足柄	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設
10		下谷・大沢	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設	10		下谷・大沢	林道補修・洪水対策	植生スコリア、スコリア土のうの埋設
11		須走	林内のスコリア移動抑制	円型杭の設置	11		須走	林内のスコリア移動抑制	円型杭の設置
12		北郷	スコリア移動抑制	茶土改良工、土留工の設置	12		北郷	スコリア移動抑制	茶土改良工、土留工の設置
13	H26	不老山	土砂移動の抑制	スコリア土のう設置	13	H26	不老山	土砂移動の抑制	スコリア土のう設置
14		足柄	道路の穴埋め防止	水留工、土のう設置	14		足柄	道路の穴埋め防止	水留工、土のう設置
15		下谷・大沢	ひすきからのスコリア流出防止	水留工、土のう設置	15		下谷・大沢	ひすきからのスコリア流出防止	水留工、土のう設置
16		須走	スコリア移動抑制	茶土改良工	16		須走	スコリア移動抑制	茶土改良工
17		北郷	スコリア斜面の侵食防止	植生マット工	17		北郷	スコリア斜面の侵食防止	植生マット工
18	H25	不老山	竹林の土砂移動抑制	竹藪工	18	H25	不老山	竹林の土砂移動抑制	竹藪工
19		足柄	林道路肩の崩壊防止	スコリア土のう設置	19		足柄	林道路肩の崩壊防止	スコリア土のう設置
20		下谷・大沢	道路の穴埋め防止	水留工、土のう設置	20		下谷・大沢	道路の穴埋め防止	水留工、土のう設置
21		須走	林内の土砂移動抑制	茶土改良工	21		須走	林内の土砂移動抑制	茶土改良工
22	H24	茶土改良	スコリアの移動抑制	茶土、優良有機材の付与	22	H24	茶土改良	スコリアの移動抑制	茶土、優良有機材の付与
23		大御所	スコリア斜面の侵食防止	茶土、優良有機材の付与	23		大御所	スコリア斜面の侵食防止	茶土、優良有機材の付与

11

地域部会の取組(体験施工例①)

＜工法の目的及び効果＞

既設の水路に木柵を設置し、雨水の流下速度を緩和して谷地形部の拡大侵食を抑制しつつ、雨水を速やかに排水する



▲H26.10.01施工

▲H27.02.10

12

地域部会の取組(体験施工例②)

平成29年度の取組



土留工(テラセル)設置状況



獣害対策設置状況



植生マット設置状況



立木調査状況

13

地域部会の取組(本年度の地域部会)

小山町山地強靱化総合対策協議会地域部会

参加依頼

〇日頃から、町内森林の整備と山地強靱化に向けた取組に貢献し、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、協議会は、森林に起因する災害の発生防止や被害軽減対策等の取組を関係者で連携を共有し対策を進めることを目的としています。効果的・効率的な森林整備を進めていくためには、森林所有者の皆様にご協力をいただくことが必要です。つきましては、下記のとおり地域部会の開催を予定しているため、御多用中誠に恐縮ですが、関係する皆様にご参加いただけますようお願いいたします。

<内容>

- ・簡易土留めの設置による崩壊拡大防止
- ・苗木植栽等による早期緑化等の森林整備体験工法

<待遇>

- ・日当 6,300 円支給
- ・弁当、飲み物は各自持参

集合場所等の詳細は参加者にご連絡します。



日時:平成30年10月6日(土)-不老山

10月13日(土)-北郷

10月19日(金)-下谷・大沢

10月27日(土)-足柄

11月10日(土)-須走

午前10時00分～午後3時00分

※日時・会場・内容は変更する場合があります。

※複数参加していただいてもかまいません。

簡単な作業になりますので是非、女性の方も気軽に参加ください。

【主催】小山町山地強靱化総合対策協議会

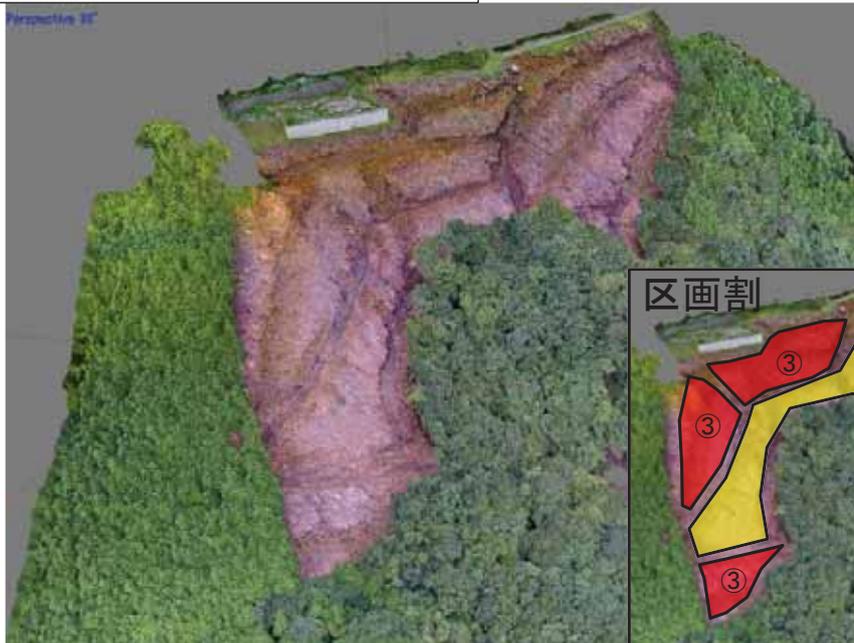
問合せ：小山町農林課 林業班 76-6112



地域部会	日時	会場	内容
不老山	10/6 (土)		林道中継保存会
北郷	10/13 (土)		林道脇の沢保存会
下谷・大沢	10/19 (金)		林道大沢保存会
足柄	10/27 (土)		林道足柄保存会
須走	11/10 (土)		須走小・中学校の森 (小舟の里地区指定)

地域部会の取組(本年度の地域部会)

主伐再造林試験場(上野) 植栽体験箇所



地域部会の取組(本年度の地域部会)

主伐再造林試験場(上野) 植栽体験箇所

複数の区画を設定し、以下の内容で試験植栽を行う。

①針葉樹早生樹種であるコウヨウザンの植栽

近年、建材として利用可能な針葉樹早生樹種として、コウヨウザンの活用が注目されており、これは成長が早いことから利用期までのサイクルを短縮できる可能性がある。また、萌芽更新が可能とされていることから、植栽を省くことによる再造林に要する経費を縮減できる可能性がある。

植栽面積:約0.5ha

植栽本数:800本



地域部会の取組(本年度の地域部会)

主伐再造林試験場(上野) 植栽体験箇所

②静岡型エリートツリー等の植栽

静岡型エリートツリー(スギ)は、静岡県が開発した成長に優れ、さらには花粉の発生が比較的少ないものであり、これについて植栽する。

植栽面積:約0.8ha

植栽本数:約2,500本(スギ、ヒノキ)

内訳:エリートツリー約400本、スギ・ヒノキ各1,000本



地域部会の取組(本年度の地域部会)

合計

2,400

主伐再造林試験場(上野) 植栽体験箇所

③多様な樹種の植栽

環境条件等で生育が可能と思われる樹種さらには、成長が早いと言われる樹種を選択し植栽する。

なお、当区画の植栽については、小山町山地強靱化総合対策協議会の地域部会における体験施工で植栽する。

植栽面積:約0.8ha

植栽本数:1,200本

植栽時期:

小山町山地強靱化総合
対策協議会体験施工
において実施



③エリアの植栽樹種

番号	樹種	本数 (本)
1	イイギリ	50
2	キハダ	100
3	シナノキ	100
4	ヤマザクラ	100
5	オオバヤシャブシ	100
6	コウヨウザン	10
7	アカマツ	200
8	チャンチンモドキ	10
9	センダン	10
10	クリ	120
11	イヌエンジュ	100
12	ミズナラ	100
13	ブナ	100
14	ウリハダカエデ	100
合計		1,200

18

地域部会の取組(本年度の地域部会)



19

森林整備・治山事業の取組



20

森林整備・治山事業の取組(民有林直轄治山事業)



21

森林整備・治山事業の取組(民有林直轄治山事業)



森林整備・治山事業の取組(森林整備事業)

○ 小山町森林整備推進協定の締結

1 目的
 小山町内の民有林と国有林が連携した**森林共同施業団地**を設定し、森林の整備に関する事項、木材の安定的供給に関する事項及びニホンジカ等の野生動物被害防止対策等に関する事項を定め、協定者が連携して安定的かつ効率的な林業経営の基盤づくりと森林施業を推進することを目的とする。

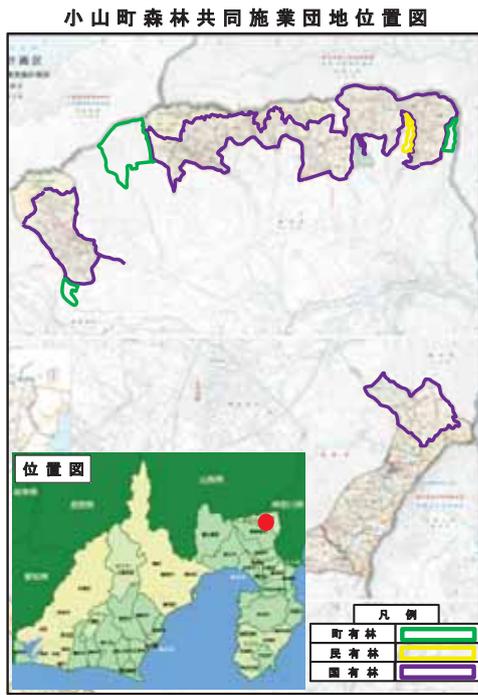
2 協定対象地の位置及び森林面積等
 静岡県駿東郡小山町 (別紙位置図のとおり)

区分	対象面積 (ha)	主間伐 (ha)	木材生産 (m)
町有林	183	13	650
民有林	17	7	350
国有林	1,310	214	28,509
合計	1,510	234	29,509

3 協定締結日及び期間
 ●協定締結日:平成28年3月10日
 ●協定期間:平成28年4月1日～平成33年3月31日まで
 (ただし、協定締結者の協議により更新することができる。)

4 協定締結者
 ●小山町長 ●静岡森林管理署長 ●静岡県東部農林事務所長

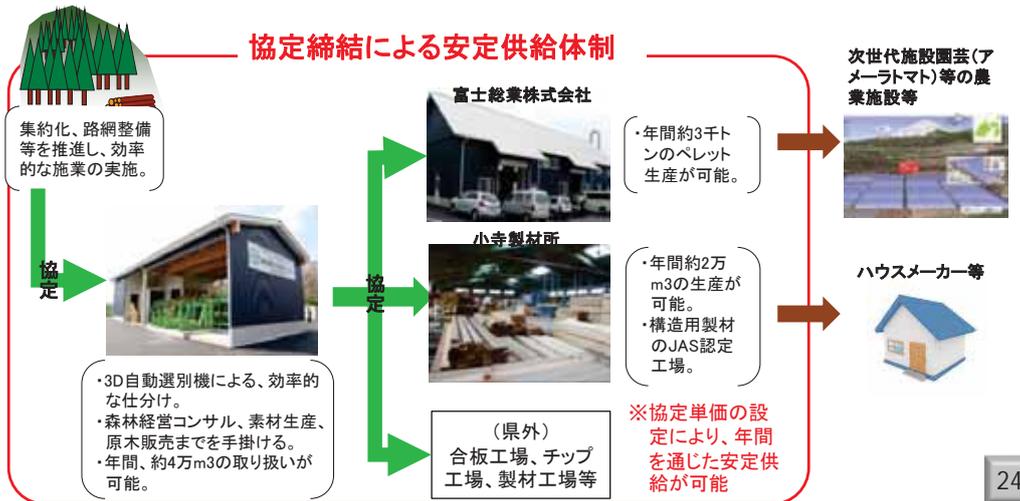
- 5 取組内容**
- 森林整備(間伐等)
 - 木材の安定供給
 - 路網等の整備及び既設路網等の相互利用
 - ニホンジカ等被害対策
 - 低質材・未利用材の利用拡大
 - 高性能林業機械の利用促進
 - 運営会議の開催



森林資源の循環利用に向けた取組(流通体制の構築)

小山町には森林組合が無く、地域林業の中核を担う組織が存在しなかった。小山町の目指す、適切な森林整備を通じた林業の成長産業化を実現するには、地域林業の中核を担う組織を作るとともに、素材生産から流通・加工までを効率的に行う必要。

このため、小山町内の素材生産業者、製材工場等が中心となり、平成26年に静東森林経営協同組合を設立し、地域の木材流通の中核を担う静東原木流通センターを開設。



24

森林資源の循環利用に向けた取組

再生可能エネルギー

小山町は、平成25年2月に「地域活性化総合特別区域」の一つに指定されており、富士のふもとに「三来拠点」をテーマに、建設予定のスマートインター等を活用した地域産業集積事業、再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業等を進めているところ。

これら事業の一環として、未利用材の有効活用による森林整備の推進、林業の活性化を図るため、**木質バイオマス発電施設を設置した。**

森林認証

静岡県においては、平成27年11月に森林組合連合会、木材協同組合連合会等の団体が中心となり、森林認証の取得促進と認証製品の利用を進めることを目的に「静岡県森林認証推進協議会」を設立。また、森林認証の取得の促進、認証材との連携を深めた県産材等の利用拡大、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした認証材の需要確保等を方針として、森林認証取得のための支援を行うこととしているところ。

小山町においてもこれらの動きを受けて、環境と経済を両立させた森林経営を目指すとともに、認証材の選択的な需要を通じた町産材の利用拡大等を目指し、平成29年度に**森林認証(SGEC、CoC)の取得した。**

25

協議会取り組みの評価

活動は5年目に突入

「行政と住民が一体となった山地強靱化への取組み」は対外的にも高く評価され、平成29年3月15日に東京で開催された**「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2017表彰式」**において、**地方自治体部門において、部門別の最高賞となる金賞を受賞した。**



林業成長産業化に向けた取り組み

小山町の林業生産の現状

本町の林業生産活動は長らく低迷していたが、平成22年台風災害を契機に、森林の機能強化による災害防止の重要性が高まってきた。また外材から国産材への需要回帰が始まり、県内外の需要圧力を受けて、町が主体となって、町有林での森林整備と木材資源の循環利用に取り組んできた。

その後、町有林での取組成果を個人、団体等が所有する民有林に広げていく中で、平成24年に小山町が先導して静東森林経営協同組合を設立し、森林組合不在の町の林業生産の核となり、施業の集約化、路網整備、作業の機械化を進めることで、林業生産活動を活発化させてきた。結果として、平成25年が約500m³に過ぎなかった町内の素材生産量は、平成28年は約14,000m³と急速に増加している。

林業成長産業化に向けた取り組み

小山町の製材・加工の現状

平成25年に本町の工業団地において木材加工施設を新設した小寺製材所は、高性能製材機械、木材乾燥機等を導入し、効率的な製材を可能としており、土台、柱材・桁材等構造材を中心に生産している。平成27年には製材JASの認定を取得し、さらに平成30年SGEC-CoC認証を取得した。

小山町の木材需要の現状

町内で加工された製材品は、ナイス株式会社を經由して県内外に供給されている。また地元建築会社にも直接納品されており、安定した木材需要がある。

小山町の森林資源の再造林

森林経営計画の策定による施業の集約化を進め、利用間伐を中心に施業を行ってきており、主伐は行われていない。しかし、区齢級以上の森林面積が9割以上と森林資源の構成に偏りがあり、森林資源の循環利用を進めるためには、林齢の平準化を図る必要があることから、主伐・再造林を積極的に実施する必要がある。

28

林業成長産業化に向けた取り組み

広域連携の取組

静東森林経営協同組合と山梨県にあるやまなしウッドチップ協同組合は、平成27年に安定的かつ効率的な原木流通を可能とするため、A、B材とC、D材を相互に融通する「原木流通等推進協定」を締結した。

また、小山町、静岡森林管理署、静岡県東部農林事務所の3者において、平成28年に本町の森林・林業の再生に向け民有林と国有林が連携し、森林整備、地域材の安定供給、シカ等の野生動物被害の防止に協調して取り組む「小山町森林整備推進協定」を締結した。

さらに、小山町と神奈川県秦野市は、平成32年度に開通予定の新東名高速道路のスマートICを活かし、相互の森林資源の利活用等を含み、地域経済活性化を目指した連携協定を平成29年に締結した。

サントリーホールディングス株式会社と丸善食品工業株式会社と小山町の3者により、水源涵養等を目的とする森林整備活動に関する協定を平成29年に締結した。

29

林業成長産業化に向けた取り組み

地域内で取り組む施策の方向性

静東森林経営協同組合を中心とした協定による直送を基本とした原木流通体制は整っている。本町は、東名・新東名高速道が新たに整備（平成30年度に足柄スマートIC、平成32年度に小山スマートIC開通予定）されることにより、本町の林業がさらに成長するための絶好の時期であることから、以下の施策により林業が産業として自立できる循環を確立（儲かる林業）する。



30

林業成長産業化に向けた取り組み

流通コストの削減と流通の最適化

現在、町内で整備中である静岡県ふじのくにフロンティアの取組の一つである産業拠点整備事業エリア内に林業に関する施設である木材加工施設等（木材乾燥施設、木質ペレット加工施設）を誘致し、関係業者を集約化することにより、県内や首都圏へ効率的に木材等を提供する。さらには、本町は首都圏の玄関口に位置し、本町内に東名に加え新東名が開通されることにより、県内や首都圏への輸送力が増強され、効率的な木材供給が可能となる。これにより、施設の集約化及び輸送の利便性の観点から、本町が核となり近隣の市町等と連携することで、大幅に流通販路の拡大が図る。

31

林業成長産業化に向けた取り組み

小山町内に整備中である産業拠点整備事業エリア



32

林業成長産業化に向けた取り組み

小山町が核となった近隣自治体との流通イメージ



33

林業成長産業化に向けた取り組み

既存自動選別機の最適化

施設の集約化に合わせ、さらなる林業成長化を目指すためには、マーケットニーズを的確に把握し、それを反映した製材木取りを実現することが重要である。

それには、既存の自動選別機の仕分けの最適化を図り、造材歩留まり及び製材歩留まりを向上させ、森林資源の状況、林業事業体の丸太の生産場所や材積、生産時期等の供給情報と木材加工業者が希望する材積や納期、材質等の需要情報を的確に把握する必要がある。

34

林業成長産業化に向けた取り組み

林業経営コストの低減

新たな森林管理システムを構築するため、経済合理性のある施業が可能な林業フィールドと公益的機能を確保することのみを目的とする非林業フィールドに選別するとともに、崩壊危険地等を抽出し地域住民に情報提供する必要がある。

小山町においては、町全域において富士山の宝永噴火に起因したスコリアが厚く堆積していることから、地表面の傾斜だけで崩壊し難いかの判断ができない状況であることから、傾斜、地位、林道又は作業道からの距離に加えて、地中における「水みち」を確認することも重要である。

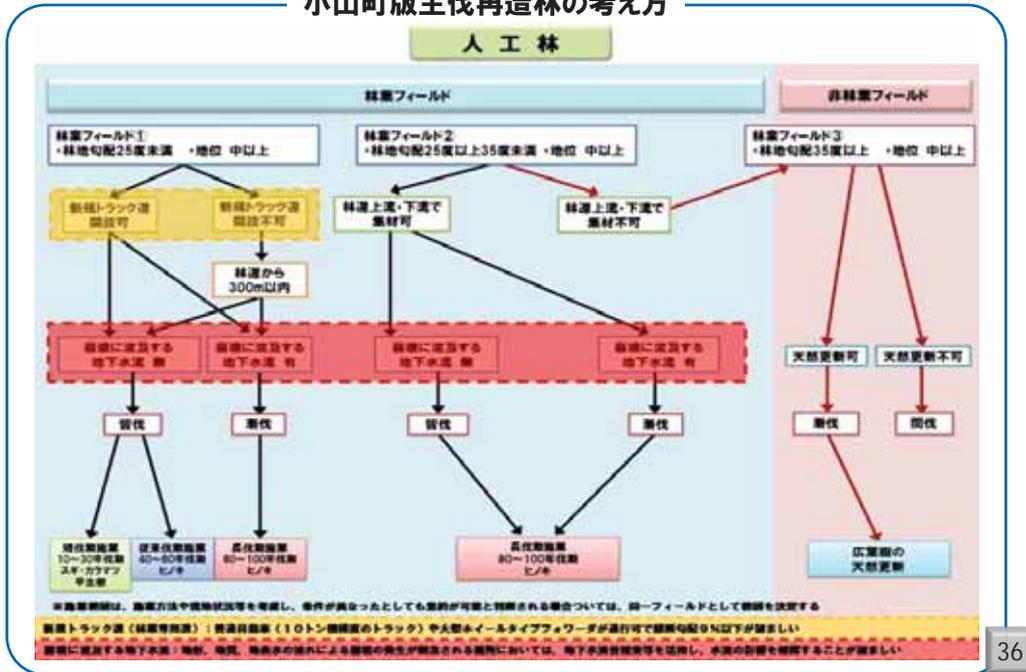
早生樹等の活用

早生広葉樹、コウヨウザン、エリートツリー（カラマツ、スギなど）のコンテナ苗を生産し、これを活用した主伐・再造林の一貫作業を林業フィールドにおいて実施し、伐出及び更新作業の低コスト化を図る。さらにマーケットを踏まえた短伐期施業の推進と保育体系の根本的な見直しを検討することにより林業利回りを大幅に改善する。

35

林業成長産業化に向けた取り組み

小山町版主伐再生林の考え方



36

林業成長産業化に向けた取り組み

水みちの調査について

本装置は、ピックアップセンサー、測定記録部、ヘッドホンで構成されています

測定記録部

ヘッドホン

測定ポイント

ピックアップセンサー

地表面

地中音源

水みち

音の強さの分布

測定位置

水みちの近くで音が最も強く聞こえます

測定状況

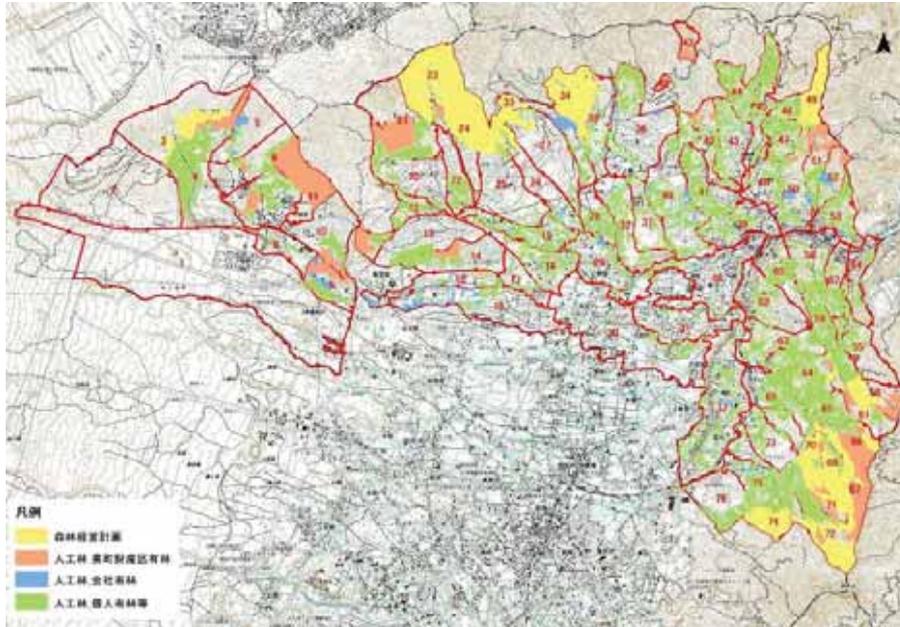
測定値プロット例

水みちの測定を行う「地中音測定装置」は、ノイズカットフィルターと音量調整によって地中の様々なノイズを軽減し、地下水の流れる音を取り出すように工夫された機器である。確認できる「水みち」の深さは、G.L.-10m程度となっている。

37

林業成長産業化に向けた取り組み

森林経営管理制度の活用準備



38

林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査

○ゾーニングの実施

対象範囲において、林業適地、不適地を「小山町版主伐再生林の考え方」に基づき、ゾーニングを実施

○意向調査の優先順位の決定

ゾーニングにおける林業適地において、山地傾斜、道路からの距離、スコリアの堆積等を点数化し、意向調査を実施する優先順位を決定する

○意向調査対象リストの作成

優先順位の高いものから500ha程度について、意向調査対象者リストを作成

○森林計画図の作成

ゾーニング及び意向調査優先順位を反映した森林計画図を作成する

39

林業成長産業化に向けた取り組み

森林経営管理制度の活用準備

町内の民有人工林において、平成31年度以降の森林経営管理制度に基づく意向調査の準備を実施中

民有人工林約3,000haのうち、町有林、森林経営計画策定箇所等を控除した範囲約1,800haを対象範囲とし、意向調査対象者リストを作成する
使用データ：森林簿、林地台帳、山地傾斜(5mメッシュ)、地質、道路

森林簿集計 (単位:ha)

	その他所属 泉有林	市町村有林	財産区有林	会社有林	その他組合 有林	寺有林	神社有林	その他宗教 団体有林	その他団体 有林	慣行有林	記名共有林	その他共有 林	個人有林	計
人工林	0.35	787.19	110.81	116.04	90.07	26.01	28.76	0.11	69.86	107.14	538.45	2.09	1072.28	2949.16
天然林(育成単層林)													0.16	0.16
天然林(育成複層林)		11.57		6.01	0.23	3.73	1.12			4.25	33.24	0.17	61.73	122.05
天然林(天然生林)	0.18	610.94	17.43	108.53	3.17	11.58	3.87		38.66	68.85	288.05	0.90	632.51	1784.67
竹林						0.04	0.38					0.30	9.18	9.90
伐採跡地												0.89	0.10	0.99
未立木地		16.84		13.62		3.27	0.34			8.92	26.57		32.00	101.56
計	0.53	1426.54	128.24	244.20	93.47	44.63	34.47	0.11	108.52	189.16	887.50	3.16	1807.96	4968.49

森林経営計画

地区名	町有林	個人有林等	計
足柄地区	258.97	30.27	289.24
北山地区	174.04	61.48	235.52
生土不老山地区	31.97	13.73	45.70
竹之下地区	44.38	7.96	52.34
須走	67.31	0.00	67.31
上野地区	13.52	68.29	81.81
計	590.19	181.73	771.92

調査対象

1934.77 ha

森林経営計画策定箇所を控除

181.73 haを控除

1753.04 ha

40

林業成長産業化に向けた取り組み

宝永の噴火について

宝永4年(1707年)12月16日、富士山は南東斜面より大噴火した。噴火は16日間断続的に続き、新たに開いた宝永火口から噴出した火山礫や火山灰などの噴出物は、偏西風によって静岡県北東部から神奈川県北西部、東京都、さらに100km以上離れた房総半島にまで降り注いだ。



宝永山と宝永火口
(写真/国土交通省富士砂防事務所)



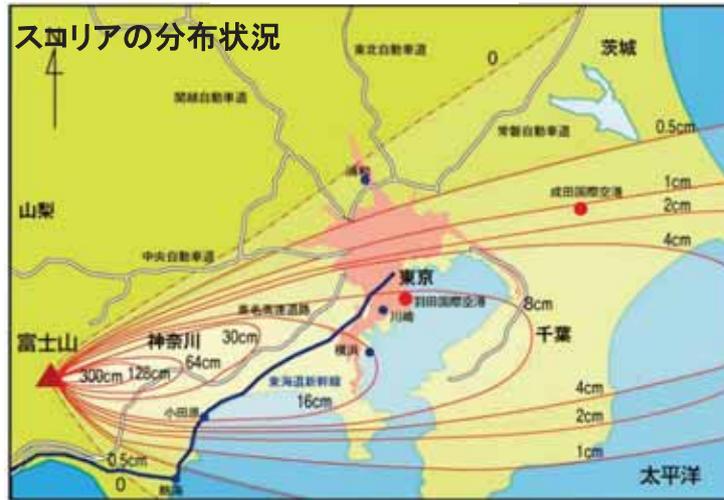
【図2】 現代地図と宝永火山灰厚さの分布 (内閣府による)

富士山は標高3776.6mで、1m以上の火山灰を火山灰で堆積されて、噴火後、噴火後100m以上の火山灰が降り注ぐ。東海道新幹線も小山原～横浜間で約20cmの火山灰で覆われる。羽田空港で10cm、成田空港では30cmの厚さに火山灰が降り注ぐ。噴火が収まってからも火山灰を完全に除去するまでは飛行機の発着はできない。

41

林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査

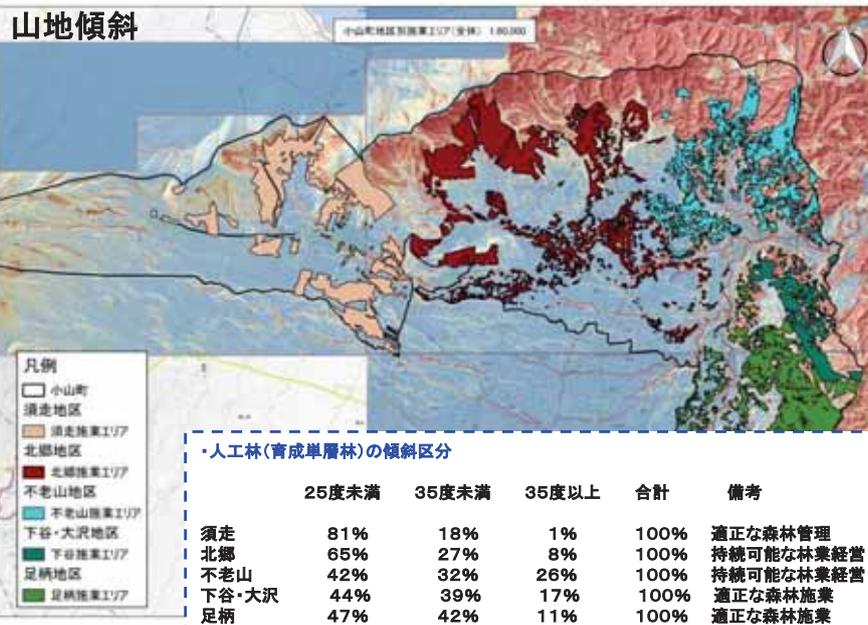


【図2】 現代地図と宝永火山灰厚さの分布 (内閣府による)

東名高速道路では御殿場付近で1m以上の火山れき・火山灰で埋め立てられ、御殿場～秦野間は数10cm以上の火山れき・火山灰が降り積もる。東海道新幹線も小田原～横浜間で約20cmの火山灰で覆われる。羽田空港で10cm、成田空港付近は2cmの厚さに火山灰が積もり、積火が収まっても火山灰を完全に除去するまでは飛行機の発着はできない

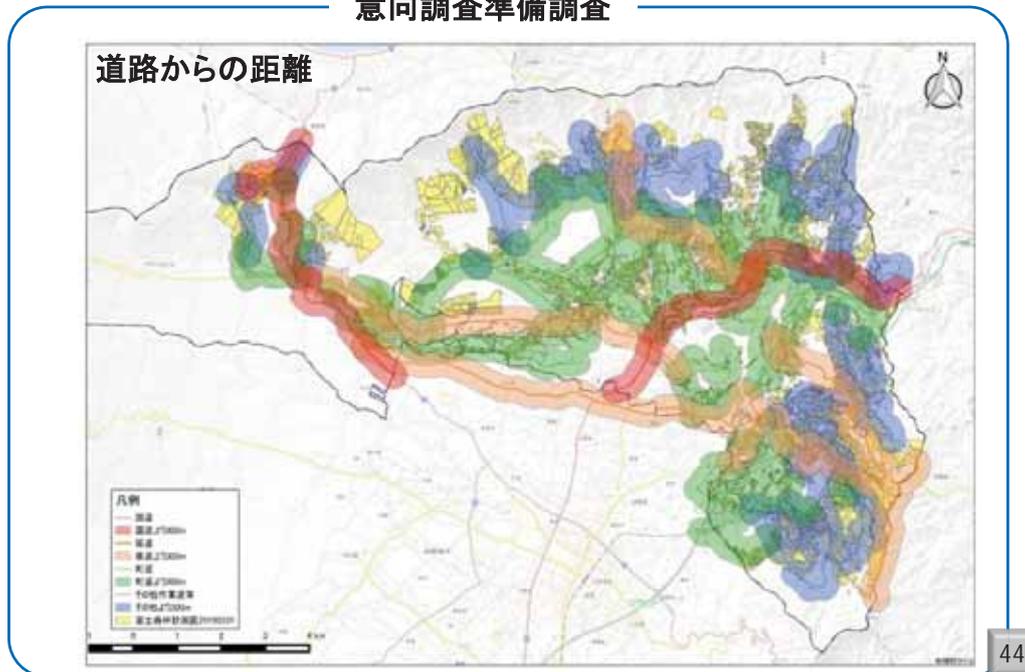
林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査



林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査



林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査

小山町版主伐再造林の考え方に基いた林業フィールド点数化

○山地傾斜の点数化

林地勾配①25度未満、②25度以上35度未満、③35度以上の3種類に区分したが、急勾配フィールドであっても緩勾配フィールドに隣接する場合、緩勾配フィールドの施業方法に準拠することとする。

実際に勾配は連続したものであり、殆どの施業計画エリアでは林班ごとに複数の勾配フィールドを含んでいる。

※この際林班で判定するのは、今後意向調査を行う段階で施業の有無を判別するのが林班単位になるため。

そのため、表1の勾配条件で各林班を点数化することとする。

○その他の条件による減点

a. 新規トラック道開設不可であり、既存の林道から300m以上の場合は非林業フィールドとする。

b. スコリア堆積地の場合、表2の条件で減点をする事とする。

以上の条件を基に6点以上を林業フィールド、5点以下は非林業フィールドとして扱う。

表1 傾斜区分による点数

勾配条件	点数
①のみ	10
①>②	9
①<②	8
②のみ	7
①>②+③	7
①<②+③	6
②>③	6
②<③	5

表2 スコリア層厚による減点

スコリアの厚さ	減点
2m以上	-3
2m~1m	-2
1m未満	-1

45

林業成長産業化に向けた取り組み

意向調査準備調査

意向調査対象者リストの作成

その後、林業フィールドと非林業フィールドにゾーニングを行い、各条件の点数化により、優先順位を確定し、来年度以降からの意向調査対象者リストを今年度中に作成する。